

学校だより

よく考え 励まし合って やりぬく子
よく考える子 励まし合う子 やりぬく子



TEL : 69-2029 FAX : 69-4448 HP-URL : <http://www.tanpopo.ne.jp/~ohyabu/index.htm>

「みんなが誇る学校づくり」のために

～児童も職員も「この学校の仲間と関わり合えて本当によかった」と言える学校～

みんなが誇る学校というのは、「児童」「保護者」「地域」のみんなが「大藪小学校って、いい学校なんだよ。」と自慢する、誇りに思う学校という意味です。職員が、みんなに「すごいでしょ!」と自慢するのではありません。

そのことを具体的にイメージしたのが「この学校の仲間と関わり合えて本当によかった。」という言葉です。子どもたちが卒業するとき、「大藪小学校の児童でよかった。」と言える学校づくりができれば、保護者も地域も「大藪小学校って、いい学校なんだよ。」と自慢できると思います。

そんな学校づくりのために、わたしたち大藪小学校職員は「ほめ上手」「しかり上手」な職員集団になります。子どもたちの行動やその心に対して感動や価値を伝えます。PTA総会の資料には難しい表現がしてありますが、要するに「ほめるときは大げさに感動を伝える。」ということです。そして、その行動にどんな価値があるか（なぜ、ほめられたのか）を伝えます。

たとえば、「掃除、頑張っていますね。」では、何をほめられているか分かりません。わたしたち大藪小職員は「ひざを着いて掃除しているので、汚れがきれいに落ちますね。さすが○○さん!」というほめ方を目指します。

このようなほめ方をすると、児童は「汚れをきれいに落とすために工夫したこと」がほめられていることに気付き、別の場所を掃除するときには、その場所にあった工夫をする子に育ちます。また、「さすが○○さん!」の声かけによって「自分の存在が認められている」と感じ、心が落ち着きます。そして先生への信頼感も高まります。そうすると、何か失敗をしてしまって叱られるときも、素直に聞くことができます。上手にほめる人が叱ると、叱る効果も高いのです。

ご家庭でも、「お手伝いありがとう。お母さん助かるわ。さすが○○。」とほめてください。「お手伝いありがとう。」が「感動」を伝えます。「お母さん、助かるわ。」が「価値」を伝えます。「さすが○○。」が「存在」を伝えます。

わたしたち大藪小も、全職員で呼びかけあって、そんな職員集団をつくるように努力していきます。ご理解、ご協力をお願いし、私の挨拶といたします。

(ここまでの文章は、PTA総会「校長あいさつ」の原稿です。)

たいせつにできています

始業式に子どもたちに伝えた「たいせつに」が、掃除の時間に実践されているのを発見しました。



階段の隅をクレンザーで磨く6年生



膝をつき雑巾がけをする1年生

校舎を大切にする気持ちが、態度・姿勢に表れ、膝を着き、床に顔を近づけて磨くという行動となっています。この姿に感動します。

「校舎が美しくなります。ありがとう。さすが大藪!!」

文責 校長 小椋英吏